

経営比較分析表（令和6年度決算）

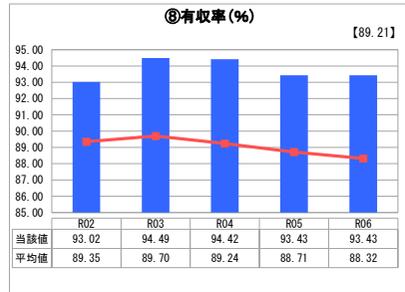
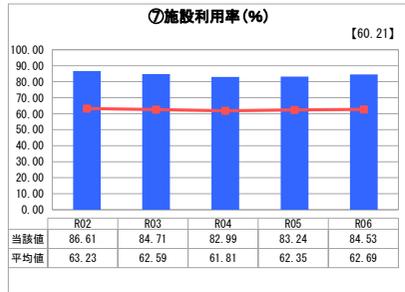
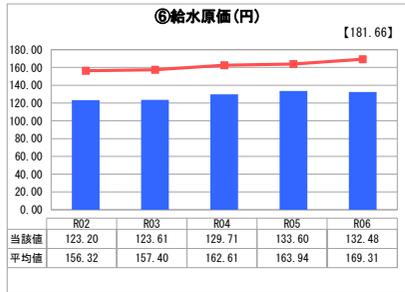
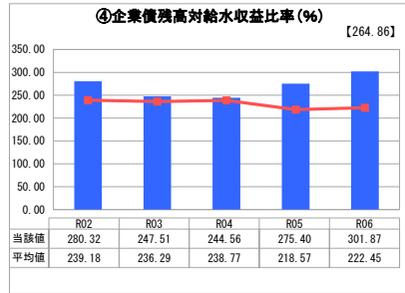
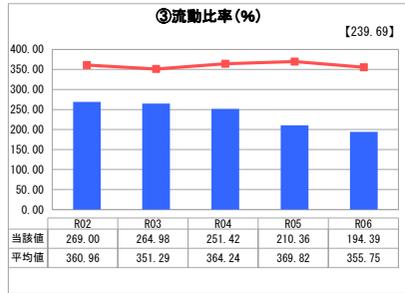
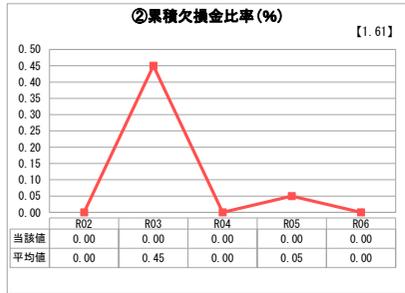
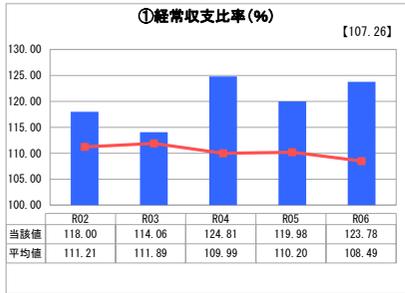
埼玉県 朝霞市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり客単料金 (円)	
-	68.04	100.00	2,255	

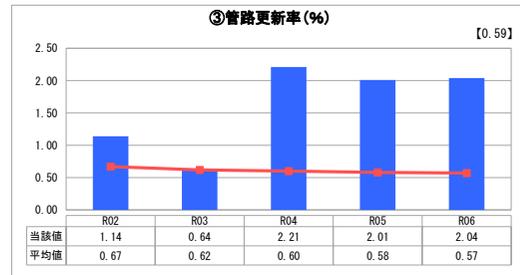
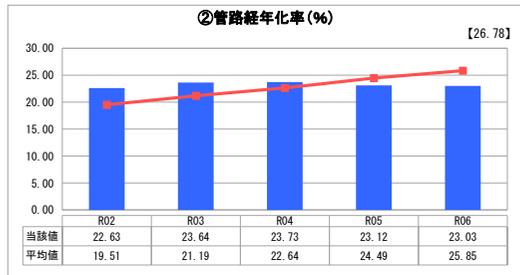
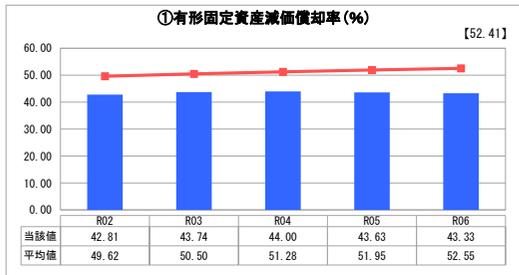
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
145,938	18.34	7,957.36
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
145,984	18.34	7,959.87

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は水道利用加入金や他会計補助金が増加したことなどにより、前年度から3.8%増加の123.78%となっている。100%を超えており健全な経営状況と言える。
 ②流動比率は前年度から15.97%減少し、194.39%と200%を下回る水準となっている。短期債務に対して十分な支払い能力を有しているが、企業債の増加による返済額の増加等に注意する必要がある。
 ③企業債残高対給水収益比率は企業債による借入が増加したことにより前年度より26.47%増加の301.87%となった。増加が続いていることから長期的な経営への影響も考慮しながら企業債の活用を検討していく必要がある。
 ④料金回収率は水道料金の減免をおこなったことにより、100%を下回った。
 ⑤給水原価は前年度から1.12円減の132.48円となった。減価償却費の増加や物価高騰等の影響により高止まりしているが、類似団体平均を下回る水準を維持しており効率的な経営ができてきている。
 ⑥施設利用率は80%を超える水準で推移しており、効率的に施設を利用できている。
 ⑦有収率は前年度と同率となり、類似団体平均を上回る水準を維持している。引き続き漏水調査など有収率の改善に努めていく。

2. 老朽化の状況について

老朽管の更新を進めており、③管路更新率が2%を上回る水準となっている。その結果、①有形固定資産減価償却率、②管路経年化率ともに類似団体平均を下回る水準を維持している。

全体総括

全体の指標としては健全な経営状況と言えるものの、老朽管更新工事等の建設改良工事を多く行っていることから、企業債や減価償却費が増加しており企業の利益や財務状況を悪化させる懸念がある。また、エネルギー価格や人件費の高騰により工事費等が上昇していることや、令和8年度から県営水道が料金改定されることにより大幅な利益の減少が予想されるため、更なる経費の削減や適正な料金水準について検討をしていく必要がある。